

「新しき明日をめざして」で新発見

# 鏡朝夫は私の叔父です



『新しき明日をめざして』を普及する中で新発見がありました。

桜庭和男さんが町内にある福祉施設「のびっこ療育センター」の鏡英夫さんに、

「この本にある同じ苗字の鏡朝夫とは関係があるのであれば」と本を見せました。本には、

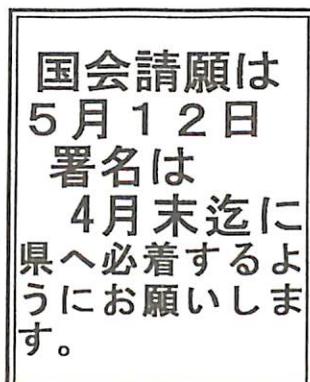
「鏡朝夫。岩手県出身。1930 (s5) 年3月盛岡中学校を卒業。弘前高校を3年で中退。1933 (s8) 年1月下旬日本共産党に入党」、東京市委

員会西部地区配布部となり、「赤旗」約4000部を配布したとして、同年4月2日治安維持法違反で警視庁に検挙され、7月3日起訴された。22歳。」【白堊同窓会会員名簿】『特高月報』33年7月】  
とだけあります。

鏡さんは「私の叔父のことだ」と驚き、親戚の人たちにも電話をして確認しました。

戦時中、思想犯で捕まった叔父のことは親戚でも語られることはなかったそうです

鏡さんには『新しき明日をめざして』を5冊購入していただきました。



卷之三

発行所  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
〒113-0034東京都文京区  
湯島2-4-2全労連会館  
国賠同盟岩手県本部  
〒020-0013盛岡市愛宕町  
17-4 牛山靖夫  
T/F 019-623-8648

▼「新しき明日をめざしては」岩手の社会運動中の事典：宍戸春雄

▼日米開戦と岩手のキリスト者、戦争より国際友好へ努力を：吉田栄一

▼連載「新しき明日をめざして」こうして誕生した（第2回）

▼第74回解放運動無名戦士合葬者の紹介

火い挙の学の行墓 言詫さ就映一だーと資悪自との親どだーるがた化  
をよの窮び確わ前今うびせ職画鶴！悪言本い問いはにもつみ素あ。座賞  
あいい状た固れの年台るてでで彬一いっ主のすう、なたたん晴つ佐の会二  
げよとをいとな集の詞母やき、うとのて義はるこおつち。ならと々「の月  
げる私まよ。しいい三だにれな学こいはやの世シとらてがそ戦しい木し例三  
とたがそコたがは月 向ない歴こつ世り負の！かたし親う争いう愛や会日  
ちなに口思、コー かか鶴がろたのの中ンうちまにしの舞間主ば盛  
すがい不ナ想改口五 つつ彬なの人中た側のがーがつなて后台に演ん、岡  
。反現祥禍とめナ日 てたにい軌がのか面仕あと悪たつ育一だ感、玉  
（D）撃政事の活てのの 鶴こ、た跡い仕つだ組つ老かとてて生つじ三劇演  
の権の国動鶴た鶴 横と進めーた組た！みた婆つい悪た懸たら時を団劇  
）烽、列民に彬め彬 がを学にのみ。」、「がたうい子命。れ間觀文鑑

## 「新しき明日をめざして」は

### 岩手の社会運動史の事典

胆江支部 宮戸春雄

若い頃に高野長英を知り、小林多喜二の虐殺を知り、その意志の強さに感銘を受けていた。しかしそれは全く特異な人でいらっしゃっていた。

次第に同じように信念を曲げずに闘った優れた活動家が多くいることを知るようになり自らの生き方を考えるようになつてゐた。

そしてこの度、牛山靖夫さんの渾身の力作「新しき明日をめざして・治安維持法等で弾圧された岩手の人びと」を手にして新たな感銘を受けている。それは岩手にもこれほど多くの優れた人々がいた事実を知った事である。さらにこの社会進歩のために生きた人々は個人ではなく社会的な繋がりの中の存在であることも知つた。

牛山さんの書かれた「解説編」がそれを教えてくれたし、「名簿編」の多数の存在が私に新たな感銘を与えた。恥ずかしながら高齢になつての新たな驚きである。

この著作は想像や憶測で記述できるものではない。この豊富な内容は長期間の研究と、調査に基づかなければできない事であろう。資料を分析して組み立てる豊かな知識がなければできない。これを完成させる強い意志と高度な思想性がこの著作を

実現させた。岩手の社会活動史の事典ともいえる宝物をつくってくれた。感謝にたえない。  
私はこれを運動の指針として受けとめる。  
この本に出てくる人たちの活動はすでに八〇年も九〇年もある。黙つてはいられない。  
〇〇年も過去のことである。後の世の私たちは「の人たちの功績を十分に顕彰しないまま過ぎている。社会の偏見を受けたまま、そして家族 親族まで世間の冷たいまなざしを受けたまま、そして今なお治安維持法時代の残滓を感じる危険な時代でもある。黙つてはいられない。

奥州市に91年前（1930年）に治安維持法違反とされ検挙、実刑判決を受けた織田秀雄がいた。およそ50年前からその業績の掘り起こしや、作品の紹介活動などが奨められていた。  
事績の掘り起こしは作品の著作活動も含む長く粘り強い活動であった。しかし、なお社会の偏見を拭い去る活動としては十分な成果は得られない今まであった。その後また30年も経過して先の顕彰活動を引き継ぐ形で顕彰碑の建立を軸に顕彰活動が進められた。顕彰碑の建立呼びかけは広く県外にもおよんだ。しかし、最大の難関は地元の偏見がなお残っていたことであった。それは、治安維持法違反者は國賊であるという当時の国策が浸透していたためであった。活動家の弾圧が家族親族にも及ぶ國賊風潮が地元に色濃く残っていた。それは、地元民の罪ではなかった。悪しき国策「治安維持法体制」のためであった。  
しかし、幅広い運動が多く協力者を得て地元の理解も進み、社会的にも認められる存在となつた。市民劇に取り上げられ、顕彰活動は市政が奨める活動の資金援助も得られるなど、公に認められる存在となつた。しかし最も根にある国の責任を認め

させる運動としては全く不十分なままである。

水沢に 清原富士雄がいた。

（注・本誌P.100参照）有罪、投獄、釈放後、思想転向者皇軍慰問団の一員として清原富士雄と満州、北支などを同行したM氏の実弟から、富士雄の親族への返信の書がある。（注・M氏は実名で本誌に紹介、しかし引用は私信なので「」では実名を伏せる）

## 日米開戦と岩手のキリスト者

### ～戦争より国際友好へ努力を～

2020.12.5 岩手県平和大会発表  
吉田栄一

（1）1941年12月8日、日米開戦の日に、岩手県で何があつたのでしょうか。

全国でスペイ容疑で126人が検挙され、外国人は本国に多数強制送還されました。

岩手県では、盛岡キリスト教教育センター（善隣館）のギルバート・シュレーヤ宣教師も検挙されました。5頁の写真は、強制送還された時に、アメリカの新聞に載つた日米（捕虜）交換船上の集合写真です。船で札幌のレーン姉妹と一緒にになりました。両親は獄中で、子どもだけ送還され、シュレーヤ一家が偶然面倒をみました。意外と知られていませんが、啄木の妹の光子も夫もキリスト者で、熊本で伝道していた夫の三浦清一も検挙されました。

その思い出を想起し苦労なされた方々の心情を思い暫し止めどなき涙にくれました。・・・後文略

想像するだけで「ちらも涙ができる。肉親たちのつらさは思に余る。どれだけ多くの人たちがつらい思いでいたものか。今まで政府は詫びの一言もないそれ故に今も社会の偏見が残つたままだ。

遺族たちも世を去つて行く。「新しき明日をめざして」の発行を機にさらに頑張らなければと鞭うたれる思いである。

（2）12月9日の新岩手日報には、次頁のように載っています。シユレーヤ宣教師は、米国大使館の帰国勧告に対し、「私は銀行員、牧師など普通の人たちでした。

英米など敵国の外国人が多く、（除・啄木妹）英語教員、学生、

戦士です」として、「米国も日本も私の祖国だ。両親が喧嘩したようなものだ。どちらに味方したら良いかわからない。」戦争が始まると危険だと書いて、逃げ帰るよつたまねはしたくないという気持ちだったそうです。

岩手県で検挙されたのは、12月9日朝6時のことです。県内の関係者13人が、善隣館に集められ、抑留されました。例えば久慈のアレン短大を作ったタマシン・アレン牧師もその一人です。

戦争も終わり間近の7月にも、カトリック系修道女が抑留されています。

(3) 特高警のシェレーヤ宣教師を検挙した理由は? 牧師夫妻の著作から考えると…

① 1938年の博士論文で、国内情報を海外に漏したとされた。岩手は農民が65%、貧困、冷害、結核、赤痢、栄養失調、迷信が多い。1931年満州事変、大凶作3年連続、農民は借金。

貧困、娘が身を売っている。

② 「娘の身売り」「欠食児童」の実態を海外に漏らした。カメラで各地を撮影、スライド上映、スペイ疑いで監視していた。

③ 善隣館は、「娘の身売り」解決のため女性たちに料理・編み物を教え、月50銭を支払い自立させた。研究・奉仕活動をスペイ容疑にしました。

(4) どんな裁判だったのでしょうか。

シェレーヤ宣教師は予審終結後、送還されました。阿部治助善隣館館長も検挙されています。私の高校時代の英語の先生の父親でした。

全国の検挙者126名中、不起訴77名、起訴48名、実刑16名、懲役2年以下13名、そして最も重いのが札幌の学生宮崎。

教師レーンで懲役15年妻13年でした。

スペイ容疑で免罪にされてしまったのです。

(5) 適用された法律は?

① 1925・4治安維持法(三浦清一の場合)

② 1937・8改正軍機保護法(1939年制定)第二条 軍事上の秘密を探知した者は収集したる者は六ヶ月以上十年以下の懲役に処す

③ 1939年・4 宗教団体法 キリスト教の教派はひとつに合併せられました。

④ 1941・3 国防保安法 軍事だけでなく国防といつも広範囲に網をかけました。

第八条 国防上の利益を害すべき用途に供する目的を以て又は其の用途に供せらるる虞あることを知りては十年以下の懲役に処す。

シェレーヤ宣教師は、この国防保安法第八条でした。

おわりに

2013年に特定秘密の保護に関する法律が交付されました。

「情報のうち特に秘匿する」とが必要であるものについて… その漏えいを図り、もって我が国及び国民の安全の確保に資することを目的とする。」

軍機保護法と同じ内容だと言われています。

日本交換船で強制送還された人の多くは、戦後また来日して引き続き国際友好に尽力しました。戦争より国際友好の努力をする、それが戦争を防ぐことにつながるという考え方だつたのです。

次の項目は、クエーカー(新渡戸稻造など、プロテスタント)の自己反省の問いかけです。

## 「新しき明日をめざして く治安維持法等で弾圧された岩 手の人びと」こうして誕生した (牛山靖夫記)

第2回

▼前回は、『岩手の社会運動の歩み―戦前編―』(1985年牛山靖夫編。以下『社会運動の歩み』と略す)には、次の三つの特徴があることを述べました。

① 実際に社会運動に参加している一人としての目線から歴史を見ていること  
② 岩手の社会運動をテーマに1冊にまとめていること  
③ 治安維持法下の弾圧を全面的に取り上げていること  
三つです。

三つの特徴は、『新しき明日をめざして』(以下『新しき明日』と略す)でも共通しています。  
大事なことは、どの分野の運動であれ、自分たちの運動の歴史を学ぼうとするなら第三者の歴史の見方考え方ではなくて、自分たちの手で歴史を掘り起こし、自分たちの頭で考えて、納得のいく歴史を学ぶことだらうと思います。

当時も、この手の社会運動史をはなかつたからか、不十分な内容にもかかわらず、思いがけない反響がありました。例えば、IBCの太田俊穂会長は盛岡中学校では社会科学研究会=社に参加し、その後は新聞記者だったので、戦前の社会運動をよく知っていました。そこで事前に『社会運動のあゆみ』の原稿を見せてもらおうと横書きの原稿を持って行くと、「縦書きの原稿しか読まないよ」と云っていましたが、次に会ったとき、「君、



The Lane sisters are among the group who were on the first trip of the exchange ship Gripsholm last year. In the front row, fourth from the left, is Dorothy Lane; sixth from left, is Katherine.

←前列左 シュレーヤー家・レーン姉妹→ |

「あなたは「戦争の準備」に反対していますか」「戦争の原因を除去するつどめをはたしていませんか」「これは、今日でも重みがある言葉です。我が町を戦争の拠点にさせない、特定秘密保護法の廃止が必要です。

連載

「新しき明日をめざして  
く治安維持法等で弾圧された岩  
手の人びと」こうして誕生した  
(牛山靖夫記)

5

あれは面白かった」と云つていただきました。

清水清一さんは、歴史教育者協議会や教員の運動で活躍した、濁声の、腰手拭の、下駄履きの先生でしたが、午前中に半分読んで感想を葉書に書き、午後に残りを読んでまた感想を書いて、一日に2枚のハガキを投函して激励してくれました。

そして、『社会運動のあゆみ』のことがあったからか、ある日突然、日本共産党の柳館与吉さんと斎藤佐智子さんのお二人に呼び出され、「岩手にも国賠同盟をつくりたいので事務局長を引き受けてくれ」と要請されたことになったのでした。

### (一) 機関紙「不屈」岩手版30年間の集大成

▼さて『新しき明日』は、どのようにして誕生したのかですが、一言で云うなら機関紙「不屈」岩手版の30年間の集大成というになります。

岩手の同盟は1991年1月19日、全国では45番目という最も遅い県の一つとして結成されました。活動の手始めは「不屈」を発行することでしたが、編集にあたっては一貫して二つのことを心がけてきました。

一つは、岩手にどんな治安維持法弾圧事件があったのか、弾圧された人びとはどんな活動をしたのか、歴史を掘り起こし、学び、語り継ぐことです。

もう一つは、岩手の社会運動の歩み＝日本と岩手の近現代史を学ぶことでした。

▼治安維持法による弾圧は1925年から1945年までの20年間ですが、それ以前にも関東大震災のときの亀戸事件や啄木が社会主義者になつていく契機となつた大逆事件などがあり

ました。というより、新しき明日をめざす思想と活動は、つねに国家権力の弾圧に抗してのたたかいと抵抗の歴史でした。また同盟は「再び戦争と暗黒政治を許すな」の旗印を掲げて活動していますが、日本の近現代史は日清・日露・日中戦争、アジア・太平洋戦争と、戦争につぐ戦争の歴史でした。

歴代の自民党政は特定秘密保護法、安保法制、共謀罪を強行し、憲法の改悪をはかり、「戦争ができる国づくり」をすすめてきました。そうなると同盟は近現代史を学ばないことに、たたかえない、活動できないということになります。

▼ところが学校教育では、歴史の授業をみんなが学ぶのは小・中学校までです。高校・大学では選択科目ですから、近現代史を学ぶ機会は限られています。まして郷土の岩手の歴史ついては、さらにその中の社会運動や弾圧の歴史というようにズームインしていくと、ほとんど学ぶ機会はない」となります。

そこで「知は力」です。何?」にも学ぶ活動は大切ですが、とりわけ同盟の活動では歴史を学ぶことが重要と考えて、「不屈」岩手版の編集に努めてきました。

### (二) 人とのつながり、結びつきに支えられて

▼『新しき明日』では幕末の三閉伊一揆からおよそ100年にわたる戦前の岩手の社会運動の歴史をたどりながら、治安維持法等で弾圧された岩手の人びとの「たたかいと抵抗の歴史」を学ぶとともに犠牲者の「名簿化」を試みています。

実は、私は信州・諏訪の出身で、盛岡には職場の転勤で来ました。ですから、岩手で思い当たるのは、啄木と賛治、南部鉄瓶と牛ではなく馬ッコ、昔は信州向けに作られていた「蒸しイ

力の塩漬け」くらいで、岩手についての基礎知識がないことにすいぶん悩まされたものでした。

▼反面、何も知らないと、何でも知りたい、知つてやろうとなります。まずは岩手の歴史を学んでみようとなつたように思います。蝦夷のアテルイが坂上田村麻呂に破れ、平泉の藤原氏が源頼朝に滅ぼされ、豊臣秀吉の奥州仕置で九戸政実が討伐され、明治維新の戊辰戦争で南部藩は賊軍とされたー、岩手の歴史は中央政府の圧政とたたかい、抵抗した「まつろわぬ人びと」の歴史でした。このような歴史をもつ県民は他にはないだろうと思ひます。

そして三閉伊一揆、自由民権運動、啄木と社会主義、賛治と労働農民党のトリコとなり、終には治安維持法犠牲者の歴史にたどりついたというわけです。

▼そのなかで「先達はあらまほしきかな」でした。多くの人たちとの出会いがあり、活字では得られない様々な歴史を教えられました。出会いに恵まれ、支えられたことに感謝しながらいくつかの体験を報告しようと思います。

創立記念日です。例年は開いてきましたが、今年は中止しました。横田鶴彬は参照して献花しました。

#### 報告

▼横田綾一さん 岩手の社会運動をの歴

史を学ぶ上で、なんといつても貴重な経験は、1972年10月から1985年8月までの13年間、日本共産党の横田綾二議の父忠夫さん（＊）は、『昭和県政覚書』（新岩手日報社）に「本県無産運動史によきにつけ悪きにつけ多彩な足跡を残しました」とあるように、弟の義重さん（＊）とともに岩手の無産運動の中心的な活動家でした。

忠夫さんは、石川金次郎さん（＊）が結成した社会主義思想団体牧民会に参加し、退会して下層民社をつくります。その後東京、大阪で活動し、帰郷してからは労働農民党に参加します。そして綾里村アワビ争議を支援したり、初の普通選挙法による総選挙をたたかいます。しかし3・15弾圧で労働農民党が解散を命じられると、その後は合法地方政党の岩手無産党を結成し、右傾化して反共主義を強め、離合集散を繰り返して社会大衆党に合流していきます。最後には侵略戦争を「聖戦」と賛美し、皇軍慰問団にも参加し、金銭問題をめぐる事件で菜園交番で自死します。

弟の義重さんは晩年、「兄とは頼朝と義經の関係だ」と云つて袂を分かつ、人民戦線事件で検挙されています。こうした忠夫さんの思想と活動に、私が批判的だったことを、綾一さんは随分気にしていました。父は社会大衆党、母のチエさんは、戦後社会党的県議、娘は自民党的国会議員とあって、「横田家はいろいろと実に複雑です。

①横田県議の身近で、多くの人の出会いがあり、忠夫・義重兄弟の活動について様々なことを聞く」とが出来ました。

②横田家にあつた岩手無産党や社会大衆党的資料を見ることができました。（その後、横田家は火事を出し、すべての資料が

焼失)

③後に忠夫さんの手記「無産運動史草稿」が佐藤好文さん（＊）の遺品から発見されました（後述）。

次号に続く

## 第74回（2021年） 解放運動無名戦士合葬者

赤坂 トヨ	81	遠野市	職場の民主化運動 新婦人遠野支部長	濱田 榮一	78	遠野市	共産党遠野市議 市民劇場等の文化活動と政治革新運動
秋山 潔	87	花巻市	岩手銀行従組中央執行委員 花巻市年金者組合、 民主的文化運動	藤沢 光夫	89	滝沢市	雪石町や滝沢市で政治革新運動
石山 健	77	一関市	共産党花泉町議 一関市議 一関市原水協会長	古館 機智男	74	軽米町	共産党軽米町議
佐々木 清七	91	滝沢市	盛岡民商理事 政治革新運動	水野 知巳	70	盛岡市	生協労組役員 共産党盛岡地区委員
下村 ミサオ	77	矢巾町	盛岡医療生協理事 新婦人班長	山田 久	84	花巻市	じん肺・振動病の労災被害補償 要求運動 政治革新運動
菅原 利久	88	盛岡市	高教組中央委員 非核の政府をつくる会県事務局長 盛岡政教分離を守る会事務局	山火 武津夫	89	一戸町	平和と民主教育の推進 東北本線を守る会事務局長
千葉 七蔵	80	一関市	全勤労一関支部書記長 一関市水と緑を守る会事務局長	渡辺 克男	76	盛岡市	岩手医科大学教職組委員長 盛岡労連議長 救援会盛岡支部長
高橋 敏哉	94	八幡平市	共産党西根町議				

大津波から10年

3・11東日本大震災・大津波から10年です。あの日、同盟では、遠藤勝男さん（大船渡市）の三人が犠牲となり、10人が家屋を全流失しました。復興はまだ道半ばであり、家族や家を失われた方々の心に傷はなかなか癒えるものではありません。10年を区切りの年として終わらせるのではなく、今一度あの時の思いに立ち返り、今何をなすべきなのか考え方行動したいと思います。

合同追悼集会は、3月18日に東京で人数を限定で行われ、遺族にはDVDが贈呈されました。